

真

三年

画数 10
筆順

十 首 直 真
マ シン

成り立ち



「十」と「目」と、「両手でだいたいにあつかう」ことを表した「六（具³年²⁸⁹）」とを組み合わせて作った字です。十目とは「十人の目」ということで、十人の目で見ただことにはまちがいがいいことから、「まちがいのない事実であること」を表したものです。「事実を重んずること」を表した字です。「まこと（本当）」といういみに使われます。「まこと」は「真事」ということです。「例 真実、真理」。

また、「純粹（まじり物がないうこと）」のいみに使われます。「例 真正、純真、真水」。

深

三年

画数 11
筆順

マ シン
フカ 11 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日

成り立ち



穴（空¹年¹⁸）の形をあらわした「宀」と「木」とを組み合わせて、「長い木のぼうをさしこんでもとどかないほど「ふかい穴」といういみをあらわした「深」と「シ」とを組み合わせて作った字です。「ふかい水」といういみをあらわした字ですが、今では「水」にかんけいなく「ふかい」といういみにつかいます。

ついでにいいますと、「深」に「手」を組み合わせた「探」という字は、「ふかい穴」に手をさしこんで、穴の中のようすを「さぐる」といういみの字で「探検」というように、「よくわからないところを「さぐる」といみにつかう字です」。

使い方

▽今日は真新しい靴をはいているので、足どりも軽い気分です。

▽冗談を真に受けて、失敗してしまいました。

熟語例

▽真実（本当のこと。「真実を話したのに、信用してくれなかった」などというふうには、つかいません。）

▽真理（真実の道理。「真理を追求するのが、学者のつとめだ」などというふうには、つかいません。）

▽真相（ものごとの本当の姿。「事件の真相は、実はこうだったのだ」などというふうには、つかいません。）

▽真正（純粹で正しいこと。本物）

▽純真（純粹で、うそやかざりがないこと。「子どものような純真な心を持った人」などというふうには、つかいません。）

▽真水（純粹な水。塩分などがまじっていない水のことです。）

▽真に受ける（本当だと思ふこと。）

使い方

▽深海魚は深い海の底にすんでいる魚です。光もささない、深い海の底の方で、ゆうゆうと泳いでいます。

▽秋が深まって来ると、木の葉が落ちて、日もみじかくなります。さびしさを感じる人もいるでしょう。秋は、また読書の季節でもあります。本を読んで、心を深める人も、たくさんいると思います。

熟語例

▽深海（深い海。「深海の底に、船が沈んでいる」などというふうには、つかいません。）

▽水深（水の深さ。「水深四十メートルまで、もぐったところがある」などというふうには、つかいません。）

▽深山（奥深い山。山がいくつも重なっている、その奥にある山。「深山に熊が出るという、うわさがあつた」などというふうには、つかいません。）

▽深刻（深く心に刻みつけられるような、重大なこと）

▽「深刻な悩みごとを、かかえる」などというふうには、つかいません。）

▽深紅（深い色合いの赤。「深紅の大優勝旗が、一位になったチームに与えられた」などと、つかいません。）